SANSHIN SUPPORT COMMUNICATION

さんしんニュース

2012
8&9月号
通巻242号

- 新展望インタビュー
- 経営革新承認先紹介
- 中小企業新事業活動促進法について
- 伊豆市活性化に関するパートナーシップ協定を締結
- さんしんチャレンジクラブ
- 医療機器個別相談会について
- 無料相談室のご案内

新展望インタビュー

「地域の知の拠点」としてコラボレーションから新たなイノベーションの創出を目指す

「国立大学法人静岡大学 イノベーション社会連携推進機構」

「国立大学法人静岡大学
イノベーション社会連携推進機構」

所在地　〒432－8561　浜松市中区城北３－５－１
TEL　053－478－1704
FAX　053－478－1711
URL　http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/index.html

三島信用金庫は、平成24年3月29日に国立大学法人静岡大学様と産学連携に関する業務協力の覚書を締結致しました。今後、静岡県東部地域においてどのような取り組みを行い地域との関わり合いもっていくのか、国立大学法人静岡大学の伊東幸宏学長、柳澤正副学長、林正浩教授、鈴木俊充特任准教授、橋詰俊彦コーディネーターにお話を伺いました。

学長 伊東 幸宏 氏

弊学には産学連携や地域連携の拠点として、「イノベーション社会連携推進機構」という組織が存在します。イノベーション社会連携推進機構では、地域社会からのニーズを適切に把握し、教育や研究へ反映させるとともにその成果を社会へ積極的に還元することを目的として業務を行っています。具体的には、地域課題と教育・研究資源のマッチングによる地域社会の活性化や、地域のニーズ等に基づくシーズ育成、産学官連携、公開講座・大学

新展望インタビュー

コラボレーションから新たなイノベーションの創出を目指す

国立大学法人静岡大学 イノベーション社会連携推進機構

伊東幸宏学長、柳澤正副学長、林正浩教授、鈴木俊充特任准教授、橋詰俊彦コーディネーターに聞く

開放事業、教育面での地域連携を実施しております。

弊学は、多岐分野にわたる技術相談への対応を随時行っておりますが、静岡県西部・中部地域の事業者様からの相談が多く、東部地域の事業者様からの相談案件は少ないのが現状です。

副学長 柳澤 正 氏

東部地域は中・西部地域とは異なる素晴らしい特徴を持ち、製造業以外にも食品加工業や観光・サービス業に携わっている事業者様が数多く立地しています。

東部地域の相談案件が少ないのは、弊学のキャンパスが静岡市と浜松市に位置し、県東部地域からは遠方にあるという距離的な要因が大きいと思います。また、事業者様からみた一般的なイメージとして、「大学への相談は敷居が高い。」と感じている方も相当数いらっしゃるのではないかと危惧しております。

その点については、三島信用金庫様をはじめとした地域支援機関との連携により窓口を増やすことで、気軽に相談できる体制を構築し、問題解決を目指していきます。

連携内容について言えば、ものづくりに携わる事業者様については工・理・情報学部等との連携はもちろんのこと、例えば農業に従事されている方や食品加工関係の事業者様が農学部と連携をすることによる6次産業化への取り組み、サービスや観光資源の活用、外国人雇用の問題などについては人文社会科学部や教育学部との連携なども考えられます。弊学だけでは対応困難な案件については、他大学との連携により解決可能なスキームも構築しております。

加えて、地域住民の皆様との交流や地元の事業者様との関係構築など社会貢献的な面にも注力することで、地域社会に必要な存在を目指していきたいと思います。

そうした中、平成24年3月に三島信用金庫様との産学連携に関する業務協力覚書を締結致しました。

左より、橋詰俊彦コーディネーター、林正浩教授、鈴木俊充特任准教授

先ほど申し上げたように弊学には県東部地域に拠点がありません。今後、県東部地域を営業エリアとする三島信用金庫様との連携を通じ、県東部地域の事業者様に対する研究・開発の相談会や共同研究の創出を積極的に行うことで弊学の存在を大いにアピールしていきたいと思っております。

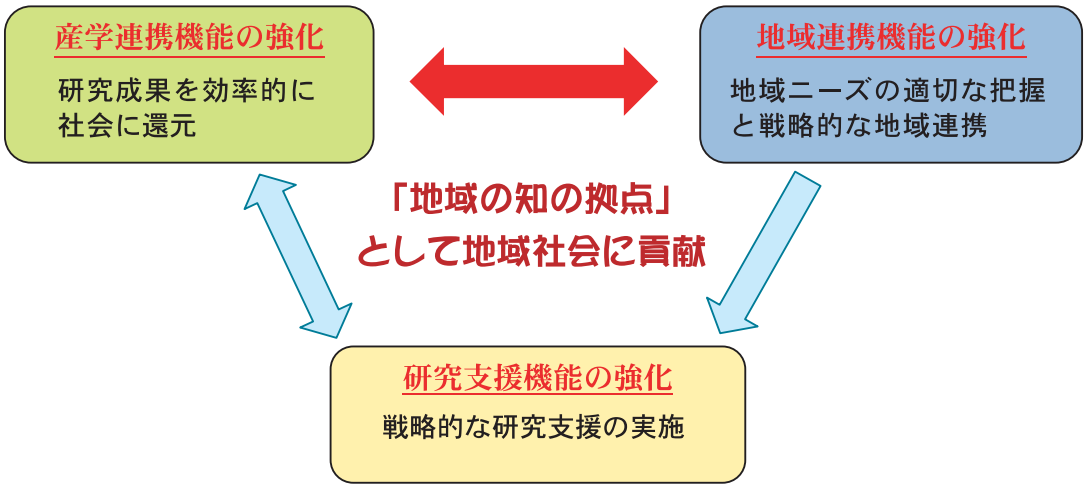
ビジョン：「地域の知の拠点」としてコラボレーションから新たなイノベーションの創出を目指します

目的：産学連携と地域連携に関わる戦略を一体的な観点から確立し、静岡大学の教育研究成果を積極的に地域社会に還元することにより地域社会と本学の発展を目指す。

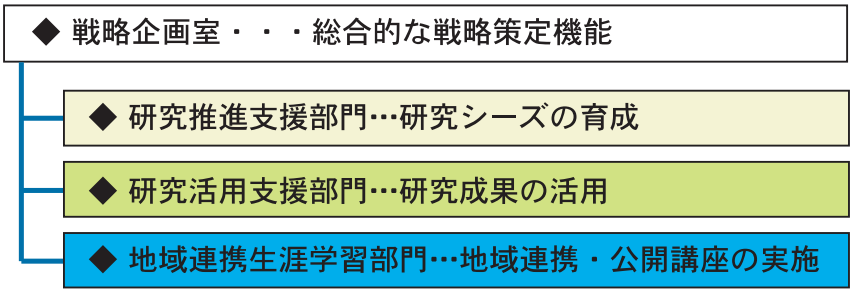
社会連携推進のための戦略

～研究推進戦略、知財・事業化戦略、地域連携戦略を一体的に実施するとともにそれを支える基盤の構築～

① 研究成果の効果的な活用に結び付く戦略的な研究シーズの育成
② 研究力や社会からのニーズ等を分析した戦略的な産学官連携活動の推進
③ 地域課題を解決するための社会連携活動の推進
④ 必要な人材の育成・確保、体制の構築



～「イノベーション社会連携推進機構」の組織体制～



経営革新承認先のご紹介

食と文化のランドマークとしての ウエディングイタリアンレストランの展開 「株式会社 ビーライン」

「株式会社ビーライン」
代表取締役　加藤 公康 氏
所 在 地　沼津市本字千本 1910－24
T E L　055－954－0112
F A X　055－954－0113
U R L　http://villa-effe.jp/

平成 23 年 2 月に中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認を受け、ついに平成 24 年 8 月、沼津市千本地区にイタリアンウエディングレストラン “VILLA EFFE” をオープンした「株式会社ビーライン」代表取締役の加藤公康氏に話を伺いました。

VILLA EFFE 外観

御社の企業概要についてお聞かせください。

当社は、私がブライダル業界で経験を積み、平成 10 年にトータルプランニングプロデュース「ビギン」として独立し沼津店、富士店を開設、ブライダルプロデュースやイベントプロデュースを手掛け、平成 19 年にはスタジオ写真部門として新たに株式会社ビーラインを設立いたしました。その後、ビギンの代表を当時の専務に変更し、当社がビギン沼津店の運営も行うようになりました。当社は様々なスタイルのウエディングを 14 年間プロデュースしてきました。

経営革新事業に取組むきっかけをお聞かせください。

私が当地にて数々のウエディングプロデュースに携わってきた中で、当地での結婚式場はホテルまたは結婚専用式場に大別され、一部ではレストランウエディングを行う店舗はあるものの、レストランとしての設備となっており、結婚式を行うには新郎新婦にとって不満の残る結果となっていると感じていました。そこで、当社が長年蓄積してきた結婚式を挙げたカップルの意向等を勘案した結果、“ロケーションの良い場所で随所に工夫が施されたレストランウエディングの会場の提供” が、現代のこだわりを持ったカップルのニーズを満たすと判断しました。このようなニーズの中で、既存のレストランを利用するのではなく、ウエディング機能が整ったレストランを新設し、普段はイタリアンレストランとして、そして挙式時にはウエディングレストランとして併用することができる自社運営の施設を持ちたいと切望しておりました。

また、私の地元である沼津市は、駿河湾や富士山等の自然や豊富な海産物に恵まれ、静岡県東部地区の中心都市として発展してきましたが、近年、人口・企業数ともに減少傾向にあり元気が無く、当社発信で何か地元活性化に繋がる取り組みを模索しておりました。

そんな時、沼津市千本地区の現在の建設地に出会い、イタリアンウエディングレストラン “VILLA EFFE” の建設にこぎつけました。

経 営革新計画の概要についてお聞かせください。

「食と文化のランドマークとしてのウエディングイタリアンレストランのレストランの展開」をテーマに、事業全体のコンセプトを “千本公園に佇む、イタリア・トスカーナ地方の大邸宅をイメージさせる海の見えるレストラン” としました。この度オープンした “VILLA EFFE” には、従来のレストランウエディングとは異なる独自な部分が大きく分けて3つあります。

まず1つ目は施設スペース・設備です。従来のレストランウエディングは、一般営業用のレストランを利用しているところがほとんどであり、ダイニングやキッチン以外のスペースに乏しくセレモニースペースや更衣室、サロン、撮影スペースを常設しているケースはほぼありませんでした。そこで当施設ではゲストハウス並みの様々な施設をレストランに併設し、さらに十分な駐車場も整備いたしました。

また、沼津市出身の世界的クリエーターの建築監修によりトラディショナルとスタイリッシュを融合したデザイン建築物になっております。

2つ目は、マンパワーです。従来では、サービススタッフやディレクターはレストランスタッフが兼任していることが多く、ウエディング専門のノウハウが無く満足なパフォーマンスが得られないことがあり、司会者や美容スタイリスト、カメラマンは専属でないためレストラン側との連携が困難で円滑なウエディングが難しいことが課題でした。当施設では、司会者やカメラマン、アテンダー、美容スタイリスト等が所属しており、14年間のブライダルプロデュース業で培った豊富な知識と経験を備えたブライダルのスペシャリストが各部門でクオリティーの高いパフォーマンスを提供いたします。

そして3つ目は、料理です。レストランウエディングといえば、フレンチが主流ですが当施設では馴染みのあるイタリアンを採用しました。石釜の見えるオープンキッチンをダイニングに併設しており、演出の一部としてキッチンの躍動感を感じていただけます。そして何といっても、沼津港で水揚げされた新鮮な魚介類等の地元食材を積極的に利用して地産地消にこだわっていきます。

本格的イタリアンメニュー

経 営革新を取得してメリットはありましたか？

経営革新を取得後、静岡県や沼津市の経営革新補助金に手を上げることができました。今までは、県や市の補助金や助成金等の支援策はハードルが高いものだと思い込んでいたのですが、今回の経営革新申請を通して県の職員の方とのネットワーク作りができたことで、各支援機関の窓口へ気軽に相談に行けるようになりました。また、経営革新は静岡県の “お墨付き” であるので対外的な信用力が増しますし、何よりも社員のモチベーション向上につながりました。

『経営革新計画』の承認を受けましょう！～中小企業新事業活動促進法～

三島信用金庫では、中小企業の経営革新（新事業活動による経営の向上）へのチャレンジを、全業種にわたって幅広く支援しております。想像と熱意のある中小企業の皆様、新たな事業に取り組む際は、『経営革新計画』を作成しましょう。

【主な支援策について】計画が県の承認を受けると様々な支援策を受けることができます。

❶ 信用保証の別枠（中小企業信用保険法の特例）
金融機関から借り入れる経営革新に資する事業資金に関し、別枠を設けています。

❷ 県制度融資（経営革新貸付）
低利の固定金利 融資限度額 8,000 万円 融資期間 10 年以内

❸ 経営革新補助金（地域産業総合支援事業費補助金）
新商品・新技術・新役務開発 500 万円 販路開拓 200 万円（補助率 1/2）

❹ トライアル発注推進事業
経営革新計画の承認を受けた県内の中小企業者が当該計画に基づき新たに開発した商品について、県が試験的に購入し、また、使用後は当該商品の有用性を評価します。

❺ 販路開拓コーディネート事業
大規模なマーケットである首都圏・近畿圏をターゲットとして、市場化・事業化を促進する制度です。中小企業基盤整備機構に、商社 OB 等の販路開拓コーディネーターを配置し、経営革新計画承認企業などが開発した新商品等を、商社・企業などに紹介又は取り次ぎを行い、具体的な販路開拓活動を支援します。

❻ 特許料金の減免（特許関係料金減免制度）
承認を受けた経営革新計画のうち技術開発に伴う研究開発事業に係る特許出願を行う中小企業者（経営革新計画の開始～経営革新計画終了後 2 年以内に特許出願を行う場合）に、特許関係料金のうち、審査請求料と特許料の第 1~10 年分を半額軽減するものです。

伊豆市と「伊豆市活性化に関するパートナーシップ協定」を締結

伊豆市と三島信用金庫を含む伊豆市内 5 金融機関は、相互に効果的な情報交換を通して、地域経済の再生と発展、地域社会の活性化に寄与することを目的に、平成 24 年 7 月 12 日、「伊豆市活性化に関するパートナーシップ協定」を締結いたしました。

行政の力と民間金融機関の力の連携により、コミュニケーションを深めスムーズで密な情報交換や支援が期待できます。

三島信用金庫は、従来以上に伊豆市との連携を強化し、地域の中小企業支援や地域の面的な再生に努めます。
パートナーシップ協定の内容については下記の通りです。

（1）伊豆市内外への情報発信に関すること
（2）企業誘致に関すること
（3）販路の拡大に関すること
（4）ビジネスマッチングに関すること
（5）マーケティングに関すること
（6）その他必要と認められる事項

さんしんチャレンジクラブ第２期発進！

平成 24 年 6 月 27日(水)に、『さんしんチャレンジクラブ第２期』のキックオフミーティングを開催しました。『さんしんチャレンジクラブ』とは、次世代を担う静岡県東部・伊豆地域の若手経営者・後継者の方々に、業種の垣根を越えた「学びの場」と「交流の場」の提供により、会員企業様の経営力向上と地域経済の持続的発展に寄与することを目的として発足した若手経営の会です。第２期生は 23 名で構成されており、平成 26 年３月期までの約２年間、勉強会や企業視察等を毎月１回行うことで経営能力の向上を図っていきます。

三島信用金庫では、事業承継の支援や各種公的制度の活用により、若手経営者や後継者の育成に力を入れていきます。

浜松市内の企業へ視察を行いました！

平成 24 年７月 26日(木)に、浜松市内の沢根スプリング(株)様へ企業視察を行いました。沢根スプリング(株)様は、商人の業界誌「商業界」にて、『日本でいちばん大切にしたい会社』の著者である法政大学大学院政策想像研究学科教授の坂本光司氏が世界に自慢したい会社として紹介したばね製造業者です。沢根社長には、経営成功の秘訣や体験談など貴重なご講話をいただきました。

「働く人が幸せになる企業を目指している。経営とは社員の幸せと会社の数字とのバランスをとり、社会貢献をすることである。」と社員を幸せにすることは社長の重要な役割であるという言葉が大変印象的でした。

また、新東名高速道路の NEOPASA 清水と浜松を見学し、人気のある土産物商品のパッケージングや商品性、陳列などを研究、加えて、春華堂にてうなぎパイ工場の生産ラインや販売方法について、お話を伺いました。

～医療機器事業分野の課題解決～ 個別相談会

医療機器事業分野においては様々な規制がありますが、中には製造・販売業許可や医療機器承認等、地元企業のみなさまにとってはハードルの高いものもあります。

ファルマバレーセンターでは、地元企業のみなさまが、そんな医療機器事業分野へ新規参入しやすくなるよう、独立行政法人医薬品医療機器総合機構への申請を目指した開発から販売までの相談を受け付けております。

【　対　象　】 医療機器開発を目指した開発
医療機器事業に関した販路相談

【　日　時　】 毎月第 1 火曜日 10:30 ～ 15:00（平成 25 年 2 月まで）

【　場　所　】 ファルマバレーセンター（静岡がんセンター研究所 1F）

【相談時間】 1 時間程度

【　費　用　】 無　料

【申込方法】 相談票を公益財団法人静岡県産業振興財団又はファルマバレーセンターの HP よりダウンロードし、FAX 又は Email にてお申込ください。

【お問い合わせ先】 ファルマバレーセンター企画部
TEL　055 - 980 - 6333
FAX　055 - 980 - 6320
Emai　kikaku@fuji-pvc.jp

無料相談室のご案内（予約制）

相談内容	相談担当	開催日
法律相談	弁護士　白井 正人	9／ 6（木）
	弁護士　鈴木 弘之	9／19（水）
税務相談	税理士　稲木 欣吾	9／ 4（火）　9／11（火）　9／18（火）　9／25（火）
経営相談	法人サポート課職員	月曜日～土曜日（9:00～17:00）
住宅ローン相談	ローンセンター職員	
年金相談	個人サポート課職員	

どうぞ、お気軽にお取引の三島信用金庫本・支店までご予約下さい。
尚、相談日は受付順にて承っております。ご希望に添えない場合もございます。あしからず、ご了承ください。

※経営相談・ローン相談・年金相談窓口は、当金庫 **サポートセンター**（三島市新谷155-1（三島南支店2F））にて、開設しております。

SANSHIN NEWS SANSHIN SUPPORT COMMUNICATION
vol.242 2012 AUG&SEP 8&9
さんしんニュース
8&9月号
平成24年9月25日発行・第242号（毎月25日発行）
発行所　三島信用金庫サポート営業部法人サポート課
三島市新谷155-1
TEL 055（981）0121